



封面

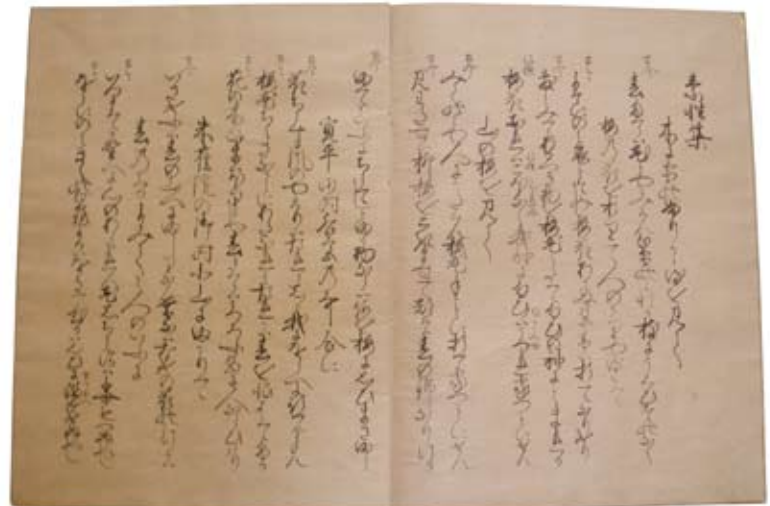


本紙

15 胡蝶装(漢籍)『十竹齋書畫譜』全八冊

清代光緒五年己卯(1879)夏至日、模刻彩色印刷 表紙:毛邊紙(竹100%)、0,05 mm厚 本紙:宣紙(青檀・稻葉)、0,05 mm厚 寸法:豎八寸六分(261)×横五寸一分(155)

原書は、明末の胡正言(1582—1672)が書法と絵画のほか、当時の書画家約30点の作品を収集し編刻し、彩色套印印刷を行ったものを、清代光緒五年に復元模刻し彩色印刷発行したものを。



16 大和綴装『素性集』一帖

江戸初期写、筆者不明 表紙:打曇紙(雁皮)、金銀泥草花描き紋様、金泥と金砂子・小石の霞紋様 題簽:鳥の子紙(雁皮)、紫色金泥霞紋様 見返し:金箔押しに卍繫ぎ紋様(地紙間似合紙) 本紙:鳥の子紙(雁皮100%、紗溜漉き)、0,09 mm厚、填料米粉入、膠塗布打紙加工 寸法:七寸九分二厘(240)×五寸八分五厘(178)

平安初期の三十六歌仙歌人僧正遍照(へんじょう)の子素性法師の和歌集で、表紙の打曇紙が室町末期の表情で書写筆風から江戸初期ではないかとのことである。筆者名はないが、この時代の公家達の共同執筆ではないかと考えられる。